

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2873100545		
法人名	医療法人高寿会		
事業所名	グループホーム高寿		
所在地	川西市久代3丁目19番1号		
自己評価作成日	令和 5 年 1 月 30 日	評価結果市町村受理日	令和5年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action_kouhyou_pref_topiigvosyo_index
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市小花1-12-10-201		
訪問調査日	令和5年3月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ感染の終息の気配が見えず、日々ストレスを感じながら介護業務を行っております。以前一番力を入れていた外部との交流、外出が一切行われておりません。そのため利用者様にストレスがかかる事を想定し入居者様一人一人がより自分らしくホームで生活を送って頂けるように意識して業務をおこなっています。運営理念の3つの心の基本に立ち返り、常に利用者様の立場になって物事を考えています。毎日の生活の中では利用者様の過ごされる時間の大半を食堂で過ごして頂き、利用者様と職員がより深く関わり合いを持ちケアの向上に努めています。また施設では職員のスキルアップや介護業務への理解度を深めるために毎月研修をおこなっています。コロナ禍が終息した場合は、地域の一人として積極的に外部と関わりを持ちたいと思います。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設21年目を迎え、新型コロナウイルス感染による多大な影響を受けながらも、管理者は利用者と職員を守り、慈しんできた。外出ができない利用者、面会ができない家族の不安に対し、テラスの窓越し面会、普段の様子や体調を電話や動画、メール、写真などで小まめに伝え、管理者と職員が一体となり、家族に安心を届けてきた。「最上級の感謝の気持ちを伝えたい」というコメントが家族アンケートに記されており、日々奮闘する職員の健康への気遣いまでが窺われた。何度かのクラスターを抑えてこられたのは、母体である医療法人との連携も大きく、家族の安心につながっている。コロナ禍収束後は、以前のように地域の一人として関わり、運営理念である3つの心を基本に、「利用者が主役」「利用者の人生を守るホーム」を目指していただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念を掲示し、管理者が職員とのコミュニケーションを大事にし理念を共有している。働きやすい環境を作り仕事の質の向上につなげている。	「心あふれる笑顔、心穏やかな生活、心温まる介護」は、新しい管理者と職員が相談して考えた理念で、コロナ禍で多忙であっても、利用者職員がそれぞれに寄り添い、働きやすい環境づくりを目指している。理念は玄関、各階に掲示され、職員の仕事の指標になっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍の為、全ての地域交流が中止状況	コロナ禍で、地域との交流は止まっているものの、民生委員からはバザーの残りや大家さんからは餠餅のお裾分けをいただくなどの近所づきあいはある。認知症サポーター養成講座の講師としての依頼があり、管理者が地域住民に認知症の講習を行った。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	少しずつではあるが、地域の方に理解して頂いてたが、コロナ禍の中で貢献も見合わせている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染拡大防止の為、職員だけで会議を開催し、委員の方に書面にて報告書を提出している。	運営推進会議は書面開催を行い、地域包括、民生委員、自治会長に報告書を送っている。入居状況や行事報告、近況報告などの内容で、送付の際に意見や情報の提供を求めている。	まず、事故報告とヒヤリハットの書式を分けて作成し、運営推進会議の報告書に、件数、簡単な内容や再発防止対策を掲載すればどうか。家族への報告書の送付も望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現在、市町村との連携を取り、生活保護の方の入居などで、協力関係を築ける様に取り組んでいる。	生活保護の方の利用があった際は、市と連携をとりながら、協力関係を築いていた。また、管理者は認知症カフェの取り組みに関心があり、市町村の会議等に参加して勉強したが、コロナ感染の影響で中断している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設では現状身体拘束はしておらず職員も理解をしている。今後やむを得ず必要性が生じた場合にはご家族様と話し合いを重ね身体拘束廃止推進委員会でも協議を行い必要性の有無を問うようにする。	現在、身体拘束をしている利用者はいない。身体拘束廃止の指針を整備し、身体拘束廃止推進委員会のメンバーで定期的に勉強会を行っている。以前行っていた車椅子のベルトやつなぎ服は、身体抑制しない介護を考える貴重な事例になった。	

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常的に心掛けており、職員もストレスをため込まない様に話し合いをしたり、虐待防止の研修を行うことで発生や防止に努めている。	職員の資質向上研修のための年間計画に「虐待防止研修」を組み入れ、年2回実施している。職員が順番に資料を作成し、それをもとに研修を行っている。アンガーマネジメントの研修を実施したり、不適切ケアが見過ごされないよう防止に努めている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族受託者がほとんどであるが、中には成年後見人制度をご利用されていますので、管理者と職員は制度の活用を支援している。	成年後見制度を利用していた利用者がいたため、事業所として制度の知識を活用できるよう支援している。今後、リーフレットを準備する予定である。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関して不明点が無いように説明し、納得を頂いて契約の履行をしている。	管理者が、不明点がないよう丁寧に説明する。質問等はあまりないが、苦情については遠慮なく言ってもらえるようお願いしている。契約の前に、契約書を渡しておくことで家族の理解が深まることもある。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍の為、外部との接触が出来ず運営反映は出来ていない状況	面会をしたいという家族の要望が多い。面会制限がある中であっても、個別の事情によっては特別に配慮することもある。利用者の様子を知りたいという意見については、動画を撮ってオンラインで送ったり、電話やメールで様子を連絡している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のカンファや全体会議などで、管理者は日常的に職員との意見交換が出来る様心掛けている	毎月ユニット会議をしているが、コロナ禍においては、密をさけるために、その日の出勤者のみで話し合いを行っている。外部評価で職員面談を行うようにとの助言があり実施した。日常的な意見とは異なる職員の思いが聴けて有意義であった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部へ職員が向上心を持って働けるように、職場環境・条件の整備依頼に努めている		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13			○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	少しずつではあるが職員が研修等を受け、他職員へ研修報告書を回覧などで実施。施設長又は職員者同士のケアアドバイスも働きかけている		
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍状態の為、グループホーム連絡会が行われなくなっている状態です。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に職員と自宅訪問し、現在の状況を把握ご家族様やケアマネージャー・職員との連携をとり、入居後不安なご入居様の意向に対応する様に努めている		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階でご要望はお聞きし、ご家族様に日常の様子をお伝えし、できる事は新たな要望も聞くように努めている		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居者様とご家族様の思いをくみ取り、まず必要としている支援を見極めながらサービスを説明し、ご入居者様やご家族様に選択もして頂けるように努めている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活しているという気持ちで、手伝っていただけることはして頂き、お互いに必要な存在であるように築いている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とは面会は、コロナ感染防止の為に感染状況に合わせて中止、または窓越しやシールド越しの面会しかできず、ご本人様は家族との関係性はあまり築けていない状況の為、電話連絡で家族様には現在の状況報告を行っている。		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の中、外出も面会も控えているので、支援は難しい状況です。	家族の面会は控えてもらっているが、家族からは花やケーキなどの届け物がある。利用者に携帯電話を持ってもらい、事業所の窓越しに家族と話しをしてもらったり、家族からの携帯の着信を職員が確認して、事業所の電話を利用してもらうなど、家族との関係性が継続できるように協力している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、席の配置を変えたりと工夫をし、できるだけフロアで過ごし、ご入居者様同士が仲良く関わられるように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了すると関係は切れている現状ですが、ご相談があれば支援するよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らし方を把握し、職員とケアマネージャと相談しながら本人本位に対応するよう努めている。	事業所は3フロアであるが、普段の様子をより深く観察できるよう、基本職員はフロアを固定してケアに入っている。フロアによっては、重度でコミュニケーションがとりづらい利用者が多く、表情や普段の様子との違いから異変を察することも多い。また、100歳以上の利用者をはじめ、高齢者が多いため、食事のペースやリズムに関しても標準にとられず、個別に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族様やケアマネージャの情報収集し、入居後も本人との会話等で状態の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、日々の生活の様子や体調の変化などを見逃さない様にカンファ等で意見交換し、現在の状況把握に努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の様子をケアプランに取り入れ見直しをし、職員は介護計画に添い対応している	管理者と介護職員が細めに意見交換を行い、介護記録に記入し、申し送り時に周知し対応している。利用者や接する機会が多いため、常時心身状態の把握ができていたとの考えで、モニタリングを重要視していない。	介護計画の中から個別ケアの項目をピックアップして、モニタリングができるシートを作成するようお勧めします。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り、日々の個別記録をスタッフ間で共有し、チェックしている 意見交換などでケアの介護計画の見直し等に活かし新たな課題を計画し反映させている		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様とも対応を共有し、できる範囲で病院付き添いなどの支援を行っている。		
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の中、全く支援できない状況である。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	診療所経営なので、往診、又状況により検査がある為、支援できている	かかりつけ医の選択は自由であるが、母体法人であるクリニックから毎週1回の訪問診療があり、全ての利用者が主治医にしている。稀に、皮膚科などの専門外来を受診したケースがあったが、利用者の日頃の状況を説明する必要があり、管理者が家族に同行した。事業所が契約している訪問看護師が毎週、健康管理を行っている。希望者は毎月1度の歯科医の往診や毎週1度の歯科衛生士の口腔ケアを受けることができる。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医に往診してもらい、医師と連携し、適切な受診、看護は出来ている		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先へ情報提供をし、ご家族様とも連絡を取り状況説明も行ない、安心して治療が出来る様に協力し、退院後も相談できる様な関係作りに努めている。	最近では、1名が新型コロナ感染で、2名が骨折で、それぞれ市内の病院へ入院した。入院中の面会は出来なかったが、地域連携室から状況の情報を得、退院前カンファレンスに管理者が同席し、退院後のケア計画を策定した。	

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師と担当者(ケアマネージャー・施設長等)で事業所で出きる範囲等を話し合い、ケアのあり方・取り組みをご家族様に説明している	「重度化した場合における事業所の指針」を文書化し、その中で事業所が出来る医療的行為の範囲を記載して契約時に家族と利用者に説明している。終末期を迎えたい場所、心肺蘇生の希望の有無などについても、事前確認書をとっているが、確認内容の定期的な更新が出来ていない。	事前確認書の内容について、定期的に再確認する事をお薦めします。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医より職員への指導有り		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練実施している 非常災害に備え消防署より、避難訓練等指導あり	主として火災発生を想定した避難訓練を実施しているが、夜間想定訓練が出来ていない。火災発生時の行動マニュアルが現実に即した内容になっていない。防災備蓄品の内容の見直しが必要である。	車椅子の利用者が多いことを考慮し、火災発生時に職員がとるべき行動の優先順位を明確にしたマニュアルを作成して下さい。飲料水を含んだ防災備蓄品をリストアップして準備して下さい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室は個室となっており、プライバシーを保護している。ご入居者様一人ひとりの特性を理解し、個々に応じた関わり方、言葉かけ敬意や思いやりを大切にしている	利用者には名字に「さん」を付けて呼び掛けている。浴室に通じる脱衣所と洗濯室は別室になっており、トイレの入り口がリビングからは見通せないなど、プライバシーに配慮したレイアウトになっている。訪問診療や歯科往診の際には、内容に応じてリビングと利用者の居室を使い分けることで、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通ができる方は自己決定出来るようにスタッフから話しかけをし働きかけている。できない方は何とか問いかけて希望を確認するように工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者様の生活ペースは特に大切に、その日の状況にそって工夫して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度訪問理美容を利用して頂いたり、服装は季節に合った服装を着てもらおうようにしている服もご入居者様からの要望があればご家族様へ伝えている。男性には髭剃りのお手伝いをしています。		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備するのは難しいが食事前にメニューを話し、色どり盛り付けも考えて食欲がそそる様に心掛けたり、食事介助の時にコミュニケーションをとり食事が楽しくなるようにしている	半調理された献立が給食会社から毎朝2日分が届く。主としてユニットごとの厨房リーダーが、湯煎、温め、盛り付け、炊飯を担当している。今日の献立を書き、職員が紹介している。食後に食器洗いを手伝う利用者もある。自炊の日は設けていない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量、水分量を把握し、個々の状態に応じた方法(ミキサー食・トロミ)で食事をして頂いている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き実施。訪問歯科はコロナ感染状況の合わせて、中止・再開を繰り返しており、再開時にはアドバイスを頂きスタッフがケアをしている。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の排泄リズムを把握しトイレで排泄が出来るように声掛けのタイミングなど工夫をして行っている。車椅子オムツ対応の入居者様にもトイレで排泄する機会を作っている	3名の利用者が布パンツを利用しているが、車椅子の利用者の殆どがオムツを使用している。完全に自立してトイレへ行く利用者もあるが、殆どの利用者は職員が排泄リズムに応じてトイレ誘導をしている。トイレでの立位や座位を保てるよう、手引き歩行など日々の生活リハビリに心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排泄のチェックをし、服薬コントロール、水分摂取等を試み、予防に取り組んでいる		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日を決めて、体調の様子など観察しながら部分浴やシャワー浴を含め入浴に向けて働きかけ入浴して頂いている	基本、週2回、午前中に入浴している。浴槽の湯を利用者ごとに入れ替える事はしていないが、追い炊きをしながら溢れさせて綺麗な湯にしている。利用者の重度化に伴い、浴槽に浸かる際には二人介助が必要となっており、常時シャワー浴の利用者の家族からは、機械浴導入の希望が寄せられている。機械浴導入費用の助成申請を、市を通じて県に行っているが、2度とも不調に終わっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムで日中を過ごし、夜間良く眠れるように支援している		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	週に1度主治医の往診があり、薬の目的や用量の指示を受け、服薬管理を行ない手渡し服用に認をしている		
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の楽しみごと興味のあることを少しでもできるよう支援している。		
49	(22)		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご入居者様が殆ど車椅子を使用されている為、天候のいい日にコロナ感染予防の為、1日一人ずつ近所へ散歩が出来るときに実施し、気分転換を行っている。	コロナ下、近くの神社などへの散歩程度にとどまっている。車椅子の利用者も乗れる車が1台あるので、コロナ禍が収束すれば、コロナ前の様に、花見などの外出を復活させたいと、管理者も職員も考えている。	
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご入居者様には金銭管理が無理な為、施設管理をしている。個々の預り金から個別に必要なとされることがある際、使用している		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は字を書ける利用者様が居ない為出来ない電話も本人様からの要望もない		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった飾り付けなどをして季節感を感じて頂き後は、室温・湿度などに気を配り、清潔保持に努めている	各階ともフロアのレイアウトはほぼ同じである。1階の大きな窓越しに庭の花々が見え、3階のテラスからは夕日が、居室からは日が昇るのを眺めることが出来る。広いビュングから延びてT字型に分かれる廊下は、訓練の場となっている。廊下の壁には「こうじゅ未術館」と銘打って写真が沢山貼られ、日頃の利用者の様子を見ることが出来る。	

自己	者	第三	項目	自己評価		外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で過ごされている方が殆どですの で音楽を流したり、テレビをつけたりとそ の時々のご入居様の気分で対応し、独りにな りたい方はお部屋でのんびりされている			
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知が進み重度化されている方が殆どの 為、安全性を優先している	利用者の写真や鈴をぶら下げた目印が、ドアの 名札の下に吊るされている。事業所からは、作り 付けのクローゼット、空調機、洗面台、照明器 具、防災カーテンなどが準備されており、ベッドは 利用者がレンタルなどで持ち込んでいる。利用者 は、整理ダンス、亡夫の遺影、仏壇、テレビ、自作 の掛け軸、お気に入りの置き物、などを配置して、 夫々が過ごし易い空間を作っている。		
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できること、わかる事を活かしています。居 室には表札、食堂・トイレなどは分かる様に 矢印や絵で表示しています。安全面は常に 考えスタッフ協力の下、その人らしく生活出 来る様にしている			

(様式2)

事業所名:グループホーム高寿 2F

目標達成計画

作成日: 令和 5年 3月 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		コロナ禍の中で心理的・環境・状況を良くする事が難しい状況	利用者様の環境の安定と施設内でできるコミュニケーションを考える。	施設内にて、皆様でできるレクリエーション内容を工夫し、気分転換を図る	毎日
2		スタッフ間の連携を良くし、入居者様への均等な支援に繋げる	入居者様一人一人の生活のADLを上げていく	全体申し送りを実施し、各フロワーとも連携し色々協力・参考にしながら、利用者様の支援内容を検討していく	毎日
3					
4					
5					

(様式3)

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取 り 組 ん だ 内 容 (↓ 該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="radio"/> ⑤その他()
2 自己評価の実施	<input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="radio"/> ④その他()
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
5 サービス評価の活用	<input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="radio"/> ⑤その他()